

「アール・デコとモード

京都服飾文化研究財団（KCI）コレクションを中心に」展



撮影：若林勇人 画像提供：三菱一号館美術館

会期：2025年10月11日（土）～2026年1月25日（日）

会場：三菱一号館美術館

主催：三菱一号館美術館

公益財団法人京都服飾文化研究財団

キュレーター：阿佐美淑子（三菱一号館美術館 主任学芸員）

筒井直子（京都服飾文化研究財団 キュレーター）

概要

1920年代を中心に世界を席卷した装飾様式「アール・デコ」。生活デザイン全般におよんだその様式は、「モード」すなわち流行の服飾にも現れました。ポワレやランバン、シャネルなどパリ屈指のメゾンが生み出すドレスには、アール・デコ特有の幾何学的で直線的なデザインや細やかな装飾が散りばめられています。それは古い慣習から解放され、活動的で自由な女性たちが好む新しく現代的なスタイルでした。2025年は、パリで開催され、「モード」が中心的な主題のひとつであった装飾芸術の博覧会、通称アール・デコ博覧会から100年目にあたります。この記念の年に、京都服飾文化研究財団(KCI)が収集してきたアール・デコ期の服飾作品と資料類約200点に、国内外の美術館・博物館や個人所蔵の絵画、版画、工芸品などを加え、合計約310点を展覧。「アール・デコー現代モードの萌芽」「モードの変化と新しい身体観」「アール・デコ博覧会とモード、芸術家との協働」「オートクチュール全盛期の女性クチュリエたち」「異国趣味とその素材」「アクティブな女性たち」「新しい身体表現とスポーツ」「受け継がれるアール・デコのモード」の8章によって、現代にも影響を与え続ける100年前の「モード」を紐解きました。

出展内容

KCI蔵の衣装60点、服飾小物やイラスト資料等、合計約200点

オルレアン美術館はじめ他館、個人蔵の絵画、工芸等、合計約110点